



# 緑の風

緑小を支えてくれて  
ありがとう

6年生を送る会

2月24日（金）6年生を送る会が行われました。  
各学年から6年生へ、6年生からみんなへ。音楽や言葉を通して、  
ありがとうの思い、応援する気持ちを伝え合うひとときです。  
今年度は、体育館にて開催。二部制ではありましたが、久しぶりに  
みんなで顔を合わせて6年生を送る会ができました。

卒業  
おめでとう!

見えない絆で繋がる子どもたち。お互いを想い、認め合う姿が、とても印象的でした。  
受け取った優しい音、励ましの言葉の数々が、子どもたちそれぞれの心に、きっと深く  
刻まれたことでしょう。

6年生がくれた「ありがとう・さようなら！」の言葉には、はっきりとした未来への  
希望が感じられました。

6年生、ご卒業おめでとうございます!! わたしたちは、緑小から応援しています!

4年生



このページに使われているイラストはみんなが描いてくれたものだよ。たくさんのイラストをありがとう！今後の『緑の風』でも随時掲載します。どうぞ楽しみにね！



# 緑が浜小学校

2年生



Y.W.さん



## 合唱『スイミー』

中学生になって、困難なことがあっても、みんなで力を合わせて頑張ってください！

自分たちの発表は緊張したけれど、上手くできて良かった。ソーラン節が迫力あって、上手だった。

## 合唱『ビリーブ』

今まで学校を支えてきてくれてありがとう！感謝の気持ちや、色々な思いの詰まった歌です。

一生懸命練習をしたので、自分たちの歌はよく出来ました。6年生のソーラン節がすごかったです。

R.Y.くん



## 合唱『大切なもの』

大切なものが何かを気付かせてくれる曲です。ソプラノとアルトが綺麗に混ざり合うところをぜひ聞いてください！

6年生



K.O.くん

## 合奏『ソーラン節』

運動会で踊った時の感動や思い出を忘れないように、この曲を演奏しています。

もっと緊張するかと思っていたけど、緊張しなかった。どの学年もみんなよく声が出ていて、演奏や歌も合っていてすごかった。贈り物があるとは思わなかったのでびっくりした。



3年生

## 合唱『とどけようこのゆめを』

## 合奏『あの雲のように』

尊敬しています。緑小を忘れないで！

最初は緊張したけど、6年生がしっかり聞いてくれたから、がんばって演奏できた。どの学年の発表もすごく良かった。

S.O.さん



1年生

## 合唱『どんなきも』

たくさんのありがとう、をこめて歌います。どんなきも、自分を大切にしがんぼってください！

うまかった！6年生はかっこよくて、全部すごいと思った。

R.T.くん

みんなの歌とか迫力が、体育館の中でもすごかった。



S.H.さん



## 合奏『風になりたい』

日々の生活のなかで、6年生がいたから安心して過ごせました。中学校での生活が、大切なものとなりますように。



5年生

## 5・6年合唱『大切なもの』

大切なものに 気づかないほくがいた  
ひとりきりじゃないことを 君が教えてくれた 大切なものを  
(歌詞より)



広報主催・スペシャル対談企画  
聞かせて！校長先生

2023.1.31(火) 実施

# ほんとのところ こんなこと、 あんなこと、



P.G.T.会長  
山田清機 氏



緑が浜小学校  
柴田貴行 校長

昨年末に配付させていただいた保護者&児童アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。コロナ禍も3年目に突入し、行事の縮小や中止などが重なり、先生方とお話する機会が減ってしまいました。そこでみなさまにアンケートを募り、その集計結果を元に校長先生とP.G.T.会長との対談を企画！普段なかなか聞けない校長先生の本音に迫ります。

校・・・柴田校長先生



会・・・山田会長



広・・・広報・人見



**会** 保護者の実感として、学校の外側のスタンダードと内側のスタンダードに開きがあるように感じます。ある程度感染対策が身につけてきた今、もう少し緩和されてもいいのではという声が多いのですが、どう思いますか？

**校** コロナが始まった当初、文科省と厚労省が出したガイドラインが違って戸惑いました。子どもたちの学びをどうするかで、職員もできることを模索しましたが、他校の状況が分からなくなり、どうしても規模が小さく、すぐに学級閉鎖になる本校では「自分たちは守る」という状況になりがちでした。

**会** コロナ禍の一番の弊害は、「どうせダメだね」と思ってしまうことだと思います。たとえ答えがNOであっても、交渉の余地があって、もしかしら他のやり方があるかと思えることが大事。先生に言えばひとまず聞いてくれる。そんなスタンスを伝えていただけたら、保護者も納得がいくのではないのでしょうか。



**校** 基本的に子どもに制限はかけたくないです。子どもたちにはいろんな可能性を持って成長して欲しいし、本来は子ども自身が決めることだと思っています。小学校は自分でできることを増やし、自分自身を知る場であって欲しい。マスクをしていると表情が読みづらく、意思疎通が十分にできていないと思います。本音が伝わりづらい世の中になっていると思います。

## アンケート集計結果

※紙面の都合上、多かった意見を抜粋して掲載いたします。

### 児童編

#### ① 今年学校で楽しかったこと

- 1: 校外学習  
(遠足、修学旅行、キャンプ、鎌倉見学)
- 2: 運動会
- 3: 友だちと遊んだこと
- 4: 各教科と勉強
- 5: 調理実習

#### ② 今年学校で嫌だったこと

- 1: 行事の縮小や中止
- 2: マスクが苦しい
- 3: 黙食
- 4: 友だちとけんかしたこと
- 5: 勉強がむずかしい



#### ③ 学校に伝えたい事

- ・楽しい行事を復活させてほしい (緑小まつり、夏祭りなど)
- ・黙食をやめたい
- ・マスクを自由にしてほしい
- ・他の学校でできていることが、どうして緑小ではできないの
- ・制限が多すぎる

※その他、コロナ禍でも行事をしてくれてありがとうなど、感謝を伝える意見もありました

#### ④ コロナ前後で変化したと感じること

※4年生以上対象

- 1: 以前と比べ行事が減った
- 2: 保護者の参加が減って学校と疎遠になり、子どもの成長を見られなくなった
- 3: 低学年との関わりが減った
- 4: 黙食で子どもにとって給食が楽しくなくなった
- 5: マスク生活が当たり前になってしまった

### 保護者編

#### ① コロナ禍の学校生活で問題に感じる事

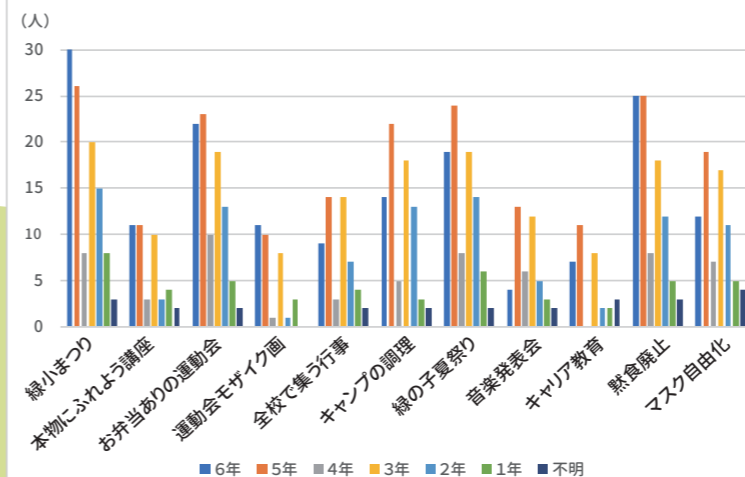
- 1: マスク  
(苦しい、自由にしてほしい、意思疎通が難しいなど)
- 2: 行事の減少
- 3: 黙食
- 4: 先生方と保護者 (または保護者同士) のコミュニケーションが減少
- 5: 学校の様子がわかりづらくなった

#### ③ 学校に伝えたい事

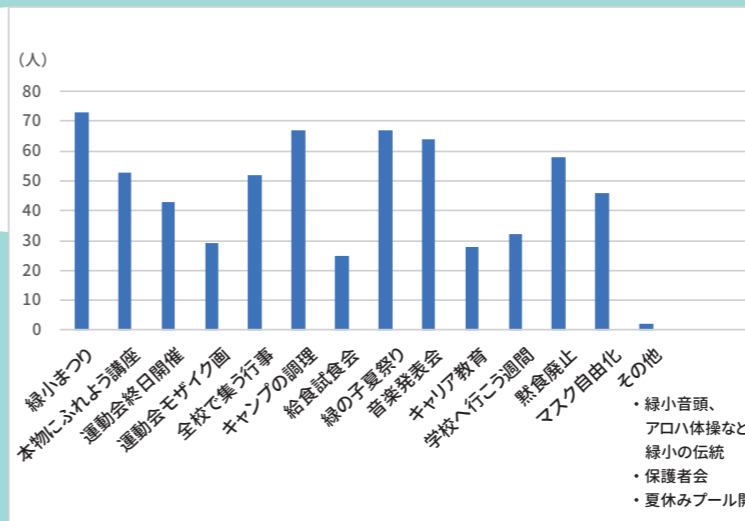
- ・緑小の校風、良さ、伝統を取り戻してほしい
- ・行事の復活を望む
- ・黙食の廃止、緩和、マスクの自由化を望む
- ・保護者の協力が必要な時は声をかけてほしい
- ・<子どもファースト>を判断基準にしてほしい

## 復活してほしいこと

### 児童編



### 保護者編



**会** 行事に関して、特に高学年は緑小まつりの復活を希望する声が多い。異学年交流の象徴である緑小まつりはぜひ復活して欲しいのですが、どうでしょうか？

**校** それがどういっしょにつながるかを考えなくてははいけません。学習指導要領との兼ね合いがあります。ですが、異学年交流に関しては来年度からもっと強めていきたいと職員からも意見が出ていて、やっていきたいと思っています。ただどの形をとるのが教育的な学びに良いのかは、今後先生たちとの話し合いになります。

**会** もう一つ、緑の子夏祭りは推進協議会主催ですが、元々は神社のない緑が浜地域の子どもたちのために、夏の夕涼み体験をしてみたいと始まったそうです。地域と緑小の子が交わる場は維持された方がいいし、復活を願う声が多いのですがどう思いますか？

**校** 地域とのイベントはあっていいと思います。その意義をぜひ先生方と直接懇談会という形になるか分かりませんが、設けていきたいです。P.G.T.と言っているのに、Teacher (教師) が入っていないので、風通しを良くしていきたい。今後に向けて前向きな話もざっくばらんにしていただけたらと思います。



**会** 先日、湘南地区のPTAと現場の先生方との集まりで、先生の本音として教材研究にける時間が足りないと感じました。行事だけでなく、研修や会議、雑務がとても多く、先生方が大変なのは分かります。完璧に元通りにするのは難しいと思いますが、行事を選択する際に<子どもファースト>であって欲しい。先生方の負担を減らしつつ、子どもたちにとってやる意味があり学びもある行事はぜひ復活してほしいと思います。

**校** 以前学校だよりも書きましたが、行事で学べるものはあると思います。行事と教科を絡められるところは絡めて、戻せるものは戻していきたいです。

会 明るく楽しくオープンなことが緑小の良いところ。それがコロナ禍によって大きく変わってしまいました。オリジナルな校風は、国→県→市と上から降りてくるものに対して、現場の方から上向きのベクトルを発信し、その二つがせめぎ合う中で生まれてくるのではないのでしょうか。コロナ禍から抜け出して明るくオープンな緑小を取り戻すためには、「緑小はこうだ!」という姿勢をもっと強く打ち出していきたいと思いますが、どうでしょうか。

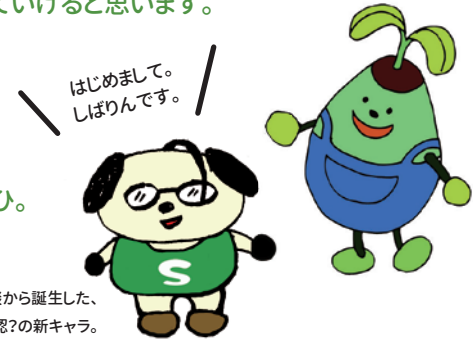
校 私だけが旗を振ってもダメなので、先生たちに投げかけたい。どういう風にしていきたいか、話せるタイミングが来ると思います。コロナ対応も変わってくると思いますし、「やれることにチャレンジしよう」となっていけると思います。

会 ぜひ先生方と保護者がざっくばらんに話せる懇談会をやりましょう。

校 そうですね。お子さんたちの話も差し障りない範囲で出てくるかもしれないです。ぜひ。

広 最後に保護者に向けて一言お願いします。

校 コロナ対策でいろいろと制限が多く、ご心配おかけしています。今後いろんなことが緩和に向かっていくので、学校としても必要な対策はとりつつ、いろいろとチャレンジしていきたいです。



※対談終了後の雑談から誕生した、校長先生公認?の新キャラ。その名は<しぼりん>!!

1時間半に及ぶ対談では、これまでのコロナ対策での先生方のご苦労なども垣間見ることができました。アンケートの回答から見てきたことは、この3年間で学校に行く機会が減ったことによる、学校と保護者との距離感。子どもたちにとっては、マスクや黙食などの制限がづらいこと、さまざまな行事の復活を願う声でした。子どもの学びや成長を願う気持ちは、先生方も保護者も同じであることが今回の対談で伝わってきました。今後国の指定感染症レベルが5類になるにあたり、さまざまなことが緩和に向かいます。できることが増え、子どもたちが持つ可能性が限りなく広がっていきますように。柴田校長先生、山田会長、お忙しい中本当にありがとうございました!



## 編集後記

メンバー  
随時募集中!



check!

学校のホームページで『緑の風』第1号から  
見ることができます。是非ご覧ください!

多くの皆様にご協力いただいた意識調査アンケート、そして校長先生とP.G.T.会長の対談はいかがでしたでしょうか。紙面でご紹介できたのはほんの一部ですが、皆様の貴重なご意見は全て学校に届けています。

この企画を通じ、お互いの声を直接伝えあうこと、そして相手の言葉に注意深く耳を傾けることがいかに大切かということを学ばせていただきました。校長先生のお言葉にあったように、来年度は学校と保護者が子どもたちのために一致団結し活動していける環境が作られますように。

大人たちの活発なコミュニケーションの輪の中でのびのびと子どもたちを育ていける、そんな“コロナ後”の時代が来ることを心から願って、2022年度最終号の『緑の風』をお届けしました。



山田



人見



吉竹



持田



初鹿



大島



西谷